

# デーヴォ ガイド



**2024.1.29-2.4**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょ。 (2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょ。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い (なるべく短く)
- ④預言の祈り (主の御心を宣言して祈り) をします。

L T G Guide

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょ。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょ。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか? (または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょ。

Cell Group Guide

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは? (信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか? (感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか? (あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

Family Worship

10:17 イエスが道に出て行かれると、一人の人が駆け寄り、御前にひざまずいて尋ねた。「良い先生。永遠のいのちを受け継ぐためには、何をしたらよいでしょうか。」

10:18 イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『良い』と言うのですか。良い方は神おひとりのほか、だれもいません。」

10:19 戒めはあなたも知っているはずですよ。『殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽りの証言をしてはならない。だまし取ってはならない。あなたの父と母を敬え。』」

10:20 その人はイエスに言った。「先生。私は少年のころから、それらすべてを守ってきました。」

10:21 イエスは彼を見つめ、いつくしんで言われた。「あなたに欠けていることが一つあります。帰って、あなたが持っている物をすべて売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになります。そのうえで、わたしに従って来なさい。」

10:22 すると彼は、このことばに顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。多くの財産を持っていたからである。

10:23 イエスは、周囲を見回して、弟子たちに言われた。「富を持つ者が神の国に入るのは、なんと難しいことでしょうか。」

10:24 弟子たちはイエスのことばに驚いた。しかし、イエスは重ねて彼らに言われた。「子たちよ。神の国に入ることは、なんと難しいことでしょうか。」

10:25 金持ちが神の国に入るよりは、らくだ

が針の穴を通るほうが易しいのです。」

10:26 弟子たちは、ますます驚いて互いに言った。「それでは、だれが救われることができるでしょう。」

10:27 イエスは彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことです。しかし、神は違います。神にはどんなことでもできるのです。」

10:28 ペテロがイエスにこう言い出した。「ご覧ください。私たちはすべてを捨てて、あなたに従って来ました。」

10:29 イエスは言われた。「まことに、あなたがたに言います。わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子ども、畑を捨てた者は、

10:30 今この世で、迫害とともに、家、兄弟、姉妹、母、子ども、畑を百倍受け、来たるべき世で永遠のいのちを受けます。

10:31 しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になります。」

この質問をした人は、よく戒めを守っている人でしたし、本人にその自負があったので、イエス様から自分が誉められるような、答えをもらえらったのだと思います。しかしイエス様は、彼のできる最大のことを要求なさいました。

このように主の前に良いことは、人と比べて満足することではなく、最大限のことをして、愛を与えることなのです。それは難しいことですが、主の愛によって動かされるならできるものです。また救いのためには、だれも不十分な愛しか持ち合わせていないのですが、主の十字架のみわざによって、救いに十分なものとさせていただけるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 30日 火曜

マルコ

10:32 さて、一行はエルサレムに上る途上にあった。イエスは弟子たちの先に立って行かれた。弟子たちは驚き、ついて行く人たちは恐れを覚えた。すると、イエスは再び十二人をそばに呼んで、ご自分に起ころうとしていることを話し始められた。

10:33 「ご覧なさい。わたしたちはエルサレムによって行きます。そして、人の子は、祭司長たちや律法学者たちに引き渡されます。彼らは人の子を死刑に定め、異邦人に引き渡します。

10:34 異邦人は人の子を嘲り、唾をかけ、むちで打ち、殺します。しかし、人の子は三日後によみがえります。」

10:35 ゼベダイの息子たち、ヤコブとヨハネが、イエスのところに来て言った。「先生。私たちが願うことをかなえていただきたいのです。」

10:36 イエスは彼らに言われた。「何をしたいのですか。」

10:37 彼らは言った。「あなたが栄光をお受けになるとき、一人があなたの右に、もう一人が左に座るようにしてください。」

10:38 しかし、イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、自分が何を求めているのか分かっていません。わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができますか。」

10:39 彼らは「できます」と言った。そこで、イエスは言われた。「確かにあなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることになります。」

10:40 しかし、わたしの右と左に座ることは、



わたしが許すことではありません。それは備えられた人たちに与えられるのです。」  
10:41 ほかの十人はこれを聞いて、ヤコブとヨハネに腹を立て始めた。

10:42 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているとおりに、異邦人の支配者と認められている者たちは、人々に対して横柄にふるまい、偉い人たちは人々の上に権力をふるっています。」

10:43 しかし、あなたがたの間では、そうであってはなりません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、皆に仕える者になりなさい。

10:44 あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。

10:45 人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです。」

イエス様が十字架の苦難のことを話されたにもかかわらず、彼らは本当の価値観を悟らずに、逆の思いを持っていました。イエス様はこの世の権力や賞賛よりも、むしろさげすまれるような道を選び、それによって十字架の救いを全うしようとされます。しかし弟子たちはイエス様とともに、この世の権力を手にいれようと期待していたのです。

イエス様を信じる信仰とは、信仰のない人の価値観とは違う生き方を選択することになります。決して自分の得になることを求めるものではありません。偉い人になるよりもむしろ仕える者になるのが、本当の信仰なのです。

この世の地位や評判に関係なく、謙遜に仕える者となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 31日 水曜

マルコ



10:46 さて、一行はエリコに着いた。そしてイエスが、弟子たちや多くの群衆と一緒にエリコを出て行かれると、ティマイの子のバルティマイという目の見えない物乞いが、道端に座っていた。

10:47 彼は、ナザレのイエスがおられると聞いて、「ダビデの子のイエス様、私をあわれんでください」と叫び始めた。

10:48 多くの人たちが彼を黙らせようとたしなめたが、「ダビデの子よ、私をあわれんでください」と、ますます叫んだ。

10:49 イエスは立ち止まって、「あの人を呼んで来なさい」と言われた。そこで、彼らはその目の見えない人を呼んで、「心配しないでよい。さあ、立ちなさい。あなたを呼んでおられる」と言った。

10:50 その人は上着を脱ぎ捨て、躍り上がってイエスのところに来た。

10:51 イエスは彼に言われた。「わたしに何をしてほしいのですか。」すると、その目の見えない人は言った。「先生、目が見えるようにしてください。」

10:52 そこでイエスは言われた。「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救いました。」すると、すぐに彼は見えるようになり、道を進むイエスについて行った。

バルティマイは人々からたしなめられても、ひるむことなくイエス様を求めました。彼は必死だったのです。主に求めて祈るときにはこれくらいの熱心さがが必要です。また「見えるようになることです」と本質を単純に求めています。

私たちは主に求めるとき、ときには苦しい思いから、周りのせいになしたり、自己卑下したり、多くの

否定的な考えが浮かぶものですが、このバルティマイのように、ただ主の全能に期待して求めるべきでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 1日 木曜

マルコ



11:1 さて、一行がエルサレムに近づき、オリブ山のふもとへのベテパゲとベタニアに来たとき、イエスはこう言って二人の弟子を遣わされた。

11:2 「向こうの村へ行きなさい。村に入るとすぐ、まだだれも乗ったことのない子ろばが、つながれているのに気がつくでしょう。それをほどこいて、引いて来なさい。

11:3 もしだれかが、『なぜそんなことをするのか?』と言ったら、『主がお入り用なのです。すぐに、またここにお返しします』と言いなさい。」

11:4 弟子たちは出かけて行き、表通りにある家の戸口に、子ろばがつながれているのを見つけたので、それをほどこいた。

11:5 すると、そこに立っていた何人かが言った。「子ろばをほどこいたりして、どうするのか。」

11:6 弟子たちが、イエスの言われたとおりに話すと、彼らは許してくれた。

11:7 それで、子ろばをイエスのところに引いて行き、自分たちの上着をその上に掛けた。イエスはそれに乗られた。

11:8 すると、多くの人たちが自分たちの上着を道に敷き、ほかの人たちは葉の付いた枝を野から切って来て敷いた。

11:9 そして、前を行く人たちも、後に続く人たちも叫んだ。「ホサナ。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。」

11:10 祝福あれ、われらの父ダビデの、来たるべき国に。ホサナ、いと高き所に。」

イエス様は永遠の主であり、永遠の王ですから、エルサレムに入るには、この世的には馬がふさわし

いということになるでしょう。実際多くの支配者は軍馬に乗ってさっそうと登場します。

しかしイエス様は戦いによって支配する王でなく、人を愛し、人のために苦しむことを選んだ平和の王です。ですからその象徴としてろばに乗ってエルサレム入りしたのです。

この世の権力に惑わされないようにしましょう。それはやがて神様によって終わりとなるものです。むしろ平和を作り出すことによって、神様からの愛の力をもらいましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 2日 金曜

マルコ



11:11 こうしてイエスはエルサレムに着き、宮に入られた。そして、すべてを見て回った後、すでに夕方になっていたので、十二人と一緒にベタニアに出て行かれた。

11:12 翌日、彼らがベタニアを出たとき、イエスは空腹を覚えられた。

11:13 葉の茂ったいちじくの木が遠くに見えたので、その木に何かあるかどうか見に行かれたが、そこに来てみると、葉のほかには何も見つからなかった。いちじくのなる季節ではなかったからである。

11:14 するとイエスは、その木に向かって言われた。「今後いつまでも、だれもおまえの実を食べることがないように。」弟子たちはこれを聞いていた。

11:15 こうして彼らはエルサレムに着いた。イエスは宮に入り、その中で売り買いしている者たちを追い出し始め、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛けを倒された。

11:16 また、だれにも、宮を通して物を運ぶことをお許しにならなかった。

11:17 そして、人々に教えて言われた。

「『わたしの家は、あらゆる民の祈りの家と呼ばれる』と書いてあるではないか。それなのに、おまえたちはそれを『強盗の巣』にしてしまった。」

11:18 祭司長たちや律法学者たちはこれを聞いて、どのようにしてイエスを殺そうかと相談した。群衆がみなその教えに驚嘆していたため、彼らはイエスを恐れていたのである。

11:19 夕方になると、イエスと弟子たちは都の外に出て行った。

葉ばかり良く茂って見た目には良く見えても、人を満たすような実がない信仰があります。イエス様は律法学者やパリサイ人のように、見た目には良く見えても愛の実を結ばない人々について語られたのです。

実のなる季節ではなかったというのは、まだ聖霊による実を結ぶ時は先であるという意味かもしれません。実を結ぶには聖霊が必要です。

見せ掛けよりも、人を愛する聖霊の実を結ぶ生き方をしましょう。

イエス様はこのように見せかけの宗教を否定なさいました。神殿で商売が成り立っている当時の状態は、まさに形だけの信仰が横行していたからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 3日 土曜

### マルコ

11:20 さて、朝早く、彼らが通りがかりにいちじくの木を見ると、それは根元から枯れていた。

11:21 ペテロは思い出して、イエスに言った。「先生、ご覧ください。あなたがのろわれた、いちじくの木が枯れています。」

11:22 イエスは弟子たちに答えられた。「神を信じなさい。」

11:23 まことに、あなたがたに言います。この山に向かい、『立ち上がって、海に入れ』と言い、心の中で疑わずに、自分の言ったとおりにになると信じる者には、そのとおりになります。

11:24 ですから、あなたがたに言います。あなたがたが祈り求めるものは何でも、すでに得たと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。

11:25 また、祈るために立ち上がる時、だれかに対し恨んでいることがあるなら、赦しなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの過ちを赦してください。」

11:26 【本節欠如】

11:27 彼らは再びエルサレムにきた。イエスが宮の中を歩いておられると、祭司長たち、律法学者たち、長老たちがやって来て、

11:28 こう言った。「何の権威によって、これらのことをしているのですか。だれがあなたに、これらのことをする権威を授けたのですか。」

11:29 イエスは彼らに言われた。「わたしも一言尋ねましょう。それに答えなさい。そうしたら、何の権威によってこれらのことをし



ているのか、わたしも言いましょう。

11:30 ヨハネのバプテスマは、天から来たのですか、それとも人から出たのですか。わたしに答えなさい。」

11:31 すると、彼らは論じ合った。「もし、天から来たと言え、それならなぜ、ヨハネを信じなかったのかと言うだろう。」

11:32 だが、人から出たと言え——。」彼らは群衆を恐れていた。人々がみな、ヨハネは確かに預言者だと思っていたからである。

11:33 そこで、彼らはイエスに、「分かりません」と答えた。するとイエスは彼らに言われた。「わたしも、何の権威によってこれらのことをするのか、あなたがたに言いません。」

いちじくのことからイエス様は祈りのことを教えました。このように、主はそのときの私たちの身の回りの出来事や関心事から教えてくださるのです。今は何も求めることはない...などと言って、祈りを怠ることなく、毎日主が語ってくださることに耳を傾けましょう。それがディボーションです。

このように主は生きておられますから、自分の都合で終わらせないで、主の主題で生きましょう。自分で考えに入れていなくても、主が求めておられることがあるのです。赦しもその一つです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



12:1 それからイエスは、たとえ彼らに話し始められた。「ある人がぶどう園を造った。垣根を巡らし、踏み場を掘り、見張りやぐらを立て、それを農夫たちに貸して旅に出た。  
12:2 収穫の時になったので、ぶどう園の収穫の一部を受け取るため、農夫たちのところにしもべを遣わした。  
12:3 ところが、彼らはそのしもべを捕らえて打ちたたき、何も持たせないで送り返した。  
12:4 そこで、主人は再び別のしもべを遣わしたが、農夫たちはその頭を殴り、辱めた。  
12:5 また別のしもべを遣わしたが、これを殺してしまつた。さらに、多くのしもべを遣わしたが、打ちたたいたり、殺したりした。  
12:6 しかし、主人にはもう一人、愛する息子がいた。彼は『私の息子なら敬ってくれるだろう』と言って、最後に、息子を彼らのところに遣わした。  
12:7 すると、農夫たちは話し合った。『あれは跡取りだ。さあ、殺してしまおう。そうすれば、相続財産は自分たちのものになる。』  
12:8 そして、彼を捕らえて殺し、ぶどう園の外に投げ捨てた。  
12:9 ぶどう園の主人はどうするでしょうか。やって来て、農夫たちを殺し、ぶどう園をほかの人たちに与えるでしょう。  
12:10 あなたがたは、次の聖書のことばを読んだことがないのですか。『家を建てる者たちが捨てた石、それが要の石となった。  
12:11 これは主がなさったこと。私たちの目には不思議なことだ。』  
12:12 彼らは、このたとえ話が自分たちを指して語られたことに気づいたので、イエスを

捕らえようと思ったが、群衆を恐れた。それでイエスを残して立ち去った。

「農夫たちのところへ遣わされた「しもべ」とは、預言者たちのことです。そして「息子」とはイエス様のことです。イスラエルの人々が神に敵対してきた様子を表しています。ここではぶどう園を横取りしようとする強欲な人間の様子が描かれていますから、欲に関して警戒する必要があります。

またそれだけでなく、これがイエス様の教えであり、神の国について、信仰と不信仰について教えているということも考える必要があります。

イスラエルの人々は不信仰ではありませんが、神の国を乗っ取ろうとまでは考えていなかったでしょう。しかし、結果的にそのような徹底的な敵にまでなってしまったのです。それは不信仰を悔い改めなかったことの結果です。

神に従わないで、それでも自分を保とうとするなら、神と戦わざるを得ないのです。神のみこころを語る人にダメージを与え、語れないようにさせ、神のみわざを損なうようになってしまうということではないでしょうか。

光と闇には中間がないように、信仰と不信仰にも中間がないこと、またイエス様とともに集めない人は散らす人であるということを忘れないようにしましょう。主に従わないでいると、いつか主の敵になってしまうということも。ですから自分の不信仰な行いや生活に気づいていたなら、今悔い改めて、主の憐れみによって変えていただきましょう。そして主のみこころへと喜んでチャレンジしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

